

第1章 重点テーマ

重点テーマは、「県民一人ひとりが主役の“とちぎ”」、「県民が協働する“とちぎ”」、「地域が自立する“とちぎ”」という3つの基本姿勢を踏まえ、中長期的な観点から、政策分野を越えて重点的に取り組んでいくものとしてお示しするものです。

県民の皆さんと一緒にこれら重点テーマに取り組んでいくことで、本県の人と社会のあり方を見直し、将来像である「活力と美しさに満ちた“とちぎ”」を実現していきたいと考えています。

1) “とちぎの人間力”を高める

社会構造が大きく変化し、人々の価値観が多様化する中で、子ども、大人を問わず、規範意識の低下や人間関係の希薄化が進むとともに、人としての誇りや目標が見失われてきていることが指摘されています。

また、女性や高齢者などが、働く意欲があるにもかかわらず、家庭との両立や固定化した雇用システムの関係などから、能力を十分に活かせる環境にあるとは言えず、近年は、若い世代の勤労観も変化してきています。

こうした人たちが、今後どのように自己実現を図り、生涯にわたってどう社会に関わっていくかが大きな課題となっています。

社会の原動力は人にあり、人のありようが社会のありようを変えていきます。

そのため、全ての県民がそれぞれが持つ個性や能力を発揮できる環境づくりを進めることによって、“一人の人間として自立し、社会の一員として積極的に活動していく人間力”に満ちた“とちぎ”を築いていきます。

目指すべき“とちぎ”では、すべての人々が、生きることの意味を知り、将来に対する夢や希望、人に対する思いやりや責任感などを持つとともに、自らの可能性を高め、社会の構成員としてあらゆる分野で活躍しています。

人づくりの基礎となる家庭教育を充実する

家庭が子どもの教育の出発点であるという認識のもと、親が手本となって、心身ともに健康で、規律正しい生活習慣や基本的なマナーを身につけた子どもを育成できるよう、家庭の教育力の向上を図ります。

親自身の意識改革、男女共同参画による家庭づくりの意識の醸成

「家庭の日」の普及定着による、親子間のふれあいの促進と信頼関係の構築

孤食の解消や朝食を取る運動など子どもの時から健全な食生活が実践できる人間を育てるための食育の推進

父子手帳の配付や各種啓発事業による父親の育児参加

人間関係をはぐくむ地域の教育力を向上する

子どもが、地域の様々な大人や仲間とふれあい、地域の産業や文化に親しむことによって、自己を高めるための力や他者を思いやる心をはぐくみ、そして、社会の一員としての自覚が持てるよう、地域の教育力を高めます。

学校や地域が連携した体験活動の機会づくりによる基本的なルールや社会性の付与

社会体験活動や自然体験活動、文化芸術活動などの促進による子どもの豊かな心や自主性、

社会性の醸成

青少年の健全な育成を図るため、全ての県民が心を一つにして取り組む「とちぎ心のルネッサンス」運動の展開

自ら学び考える力をはぐくむ

学ぶことの楽しさや大切さを理解し、子どものうちから、社会のあらゆることに興味・関心を持ち、自らが考え、判断できる人間を育てるため、子どもの多様な能力をはぐくむ学校教育を充実します。

少人数学級の推進による基礎的・基本的な学力の向上
心に響く読書教材の活用などによる道徳教育の充実
科学する心を育成するための教育の充実
勤労観・職業観の育成のための学習プログラム開発と普及

生涯にわたって学び続けられる環境をつくる

知識だけではなく、創造性や課題解決能力を備え、豊かな心をもって人生を送ることができるよう、いつでもどこでもだれもが、望むときに学べ、そして自己を高めることができる環境づくりを進めます。

県や市町村、大学等が連携した多様な学習機会の創出
学習の場としての学校施設の開放

多様な人材があらゆる場面で活躍できる環境をつくる

女性や高齢者、障害者をはじめ、社会に参加しようとするすべての県民が、年齢や性別等にかかわらず、自己の能力や価値観、ライフスタイルに合わせ、就業の場や地域づくりなどを通して社会に参加できる環境づくりを進めます。

家庭・就業の場における男女共同参画の環境整備促進
シルバー大学校における地域活動推進者の養成
労働機関との連携による障害者雇用の促進
とちぎ就職支援センターによる若年者のキャリア形成
就農希望者の技術習得のための就農準備校の開設

2) 社会全体で子育てを支える

核家族化の進行や価値観の多様化など、子どもを取り巻く家庭環境や社会環境が大きく変化する中で、家庭や地域の養育力が低下し、また、育児への不安や悩み、負担感を感じる人が増えています。

子どもは、未来をつくり出す「社会の宝」です。超高齢社会を目前にして、安定した経済や社会保障制度など、私たちの社会を持続可能なものとしていくためには、次の時代を担う子どもたちを社会全体で育成していく必要があります。

このため、子育ては家庭が第一義的に責任を有するという認識を大切にしつつも、次代を担う子どもたちを安心して生み育てることができるよう、学校や地域、企業、行政などが、様々な立場から子育てを支えられる環境づくりを進めます。

目指すべき“とちぎ”は、結婚や子育てに夢を抱き、子どもを持ちたい人が安心して子どもを持ち、子どもたちはもちろん、周りの人々の笑顔と歓声が絶えることのない社会です。

地域の人々の支え合いで子どもを育てる

地域における子育て支援を充実し、子育てを家庭のみに負わせるのではなく、子どもも親も地域において暖かく見守り支えられる環境づくりを進めます。

ファミリー・サポート・センター等の子育て支援拠点設置による地域の相互援助活動の促進

「子育てサロン」や「つどいの広場」等における子育て家庭の交流促進
民生・児童委員、母子保健推進員などの活動支援と子育て支援のネットワークづくり
地域の子どもから高齢者までの異世代が交流する機会づくり
保育所や幼稚園などが有する養育・教育機能の開放
児童虐待の未然防止と早期発見、早期対応

子育てしやすい職場をつくる

生活と職場との適正なバランスを保ち、働く親がゆとりをもって子育てができるよう、企業等における就業・雇用環境づくりを進めます。

男女がともに育児休業・看護休暇を取得しやすい職場環境づくり
子育てに配慮した勤務形態など多様で柔軟な働き方ができる職場環境づくり
出産や育児などで退職した女性の再就職促進と事業者による再雇用制度の定着

充実した子育て支援体制をつくる

子育てに関する負担感や不安感を解消し、子どもを安心して生み育てられる体制を充実します。

子育てや家庭教育などについての不安や悩みに対応する各種相談事業や情報提供の充実
低年齢保育や延長保育、休日保育、障害児保育、特定保育等の多様な保育サービスの充実
子どもや母親の心身の健康を図るための母子保健医療や小児医療対策の実施
思春期の男女が健全な母性や父性意識を養うための健康教育や相談の実施
子どもの人権尊重の意識醸成と被虐待児に対する支援体制の充実

③) 個性あふれる地域を創る

急速な都市化や工業化に伴い、地域の個性ある風物や文化などが失われるとともに、経済の低迷や人々のライフスタイルの変化、人間関係の希薄化によるコミュニティの衰退などによって、地域の活力や魅力が失われつつあります。

一方では、子育てや福祉、まちづくりなどの生活に身近な問題について、住民自らで解決しようとする動きが広がりを見せています。

そのような中であって、三位一体の改革や市町村合併をきっかけとして、地域のことは地域で決めるという自主・自立の地域づくりが求められるようになっていきます。

このため、住民自らが創意工夫を発揮して、それぞれの地域が持つ資源や潜在力、可能性を活かすとともに、新たな活力を創造する個性あふれる地域を築いていきます。そして、こうした地域が交流・連携し、さらに輝きを放つことによって、住む人にも訪れる人にも魅力ある“とちぎ”を築いていきます。

目指すべき“とちぎ”では、それぞれの地域で、個性あふれるさまざまな活動が展開され、人々が日々の生活を楽しんでいます。

地域の魅力を活かす

歴史・文化や自然環境など地域の魅力を構成する資源を一人ひとりが改めて見つめ直し、その活用を図ることで、心地よい生活空間を築くとともに、全国や世界へ積極的に情報発信し交流を進めます。

世界遺産「日光の社寺」など県内各地の文化遺産の保護と活用

地域の特色ある歴史や文化等の発掘とそれらを活かしたまちづくり

観光地のブランド力の向上による国内外との交流拡大

「地域ならでは」の特産物や伝統料理を活用したとちぎの豊かな食づくり

平地林や里山などの豊かな自然環境の保全とふれいあいの場としての活用

地域の新たな活力を生み出す

それぞれの地域が持つ潜在力や発展可能性を最大限に引き出すための、住民の創意工夫による地域づくりを支援することにより、失われてきたコミュニティを再生するとともに、地域の新たな活力を創造します。

子育てや教育、福祉、環境、中心市街地活性化などの地域づくり活動の促進

地域密着型ビジネスの育成支援

笑顔あふれる“とちぎ”を築く

誇りをもって未来に引き継いでいける郷土“とちぎ”となるよう、個性あふれる県内各地域の連携や交流を促進し、みんなの笑顔あふれる“とちぎ”を築いていきます。

県民協働事業の積極的な展開

市町村連携事業の支援

地域間の交流連携を促進する社会資本の整備